



きばっちょいもんさ

～鹿児島企業の顔・人・心～

「困ったときの南光」「困ったときの工技センター」

株式会社 南光
代表取締役社長 上田平 勝

株式会社南光は、昭和46年に鉄板のシャーリング、プレスを行う加工業者として創業。以来、一貫してあらゆる金属(一部セラミック)の加工を行ってきました。

現在ではその技術を生かして、

- ①建築金物の設計・製作・施工
- ②IT関連装置の製作・アッセンブリー
- ③製缶・プラント設備の製作・設置
- ④自動車関連部品の製作
- ⑤環境関連機器の開発・製造

と、5本の柱で生産活動を行っています。

創業以来、下請けメーカーとしての位置付けで生産活動をしてきましたが、バブル崩壊後安値による受注競争が激しくなり、会社の経営も厳しい状況となってきました。その様な中、以前からの夢であった開発メーカーとしての生産活動を行う機会ができ、5年程前からの取組みで、磁気を使っての燃費向上装置・廃食用油のリサイクル装置・焼酎廃液処理機・生ごみ処理機などの開発を行ってきました。

来年で創立30周年になりますが、工技センターとは前身の機械金属技術指導センターが金属団地内にある時からお世話になり、弊社の工作機械

工場が出来てからのつながりは特に密なものとなりました。難削材の切削を行うのにどのような材質のバイトを選んだら良いかなどいろいろと教えて頂きました。最近では、廃食用油のリサイクル装置で生成された燃料の性状や、生ごみ処理機から排出される水の水質などを分析して買っています。

今年の2月には、廃食用油のリサイクル装置(写真2)で第5回かごしま産業技術賞の大賞を受賞し、いろいろなマスメディアに取上げられ、今まで以上にいろいろな方から、こんな物は出来ないか?あんな物があればいいのだが、と話が持ち込まれるようになりました。私の経営哲学である「仕事は断らない」、「製造業でありながらサービス業である」の精神で、このような話にも常に前向きに取り組んで行きたいと考えています。そのような時に工技センターに、より一層の協力を仰いで、商品開発のための調査・研究を行い、「困ったときの南光」と得意先や地域から頼りにされるような会社にして行きたいと思えます。

また、「困ったときの工技センター」として、今後も弊社にないハード・ソフト・ノウハウを御教授頂ければ幸いです。



写真1 本社ビル

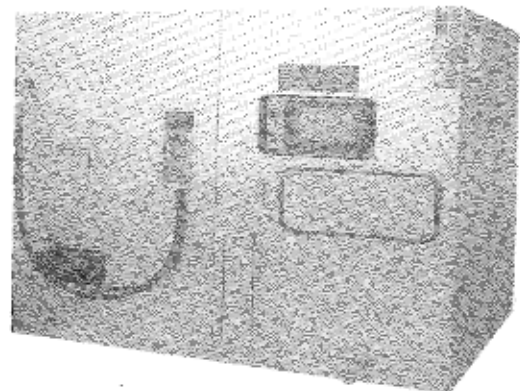


写真2 廃食用油のリサイクル装置
(第5回かごしま産業技術賞 受賞)